

# 飛鳥時代の授業

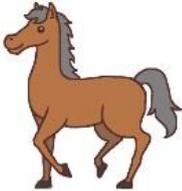
日本と朝鮮半島のつながりを考えよう。

1 日本には、中国や朝鮮半島から伝わったと言われている文化がいくつかあります。例えば、**米作り、馬、漢字、仏教**などです。

こうしたものが、どうやって伝わったのか、まず考えてみましょう。

最初に、それぞれの文化にはどういうものがよまか、考えてみましょう。

注意：考える時には、作るだけではなく、使うことも、手入れすることも考えながら、必要な物をなるべくたくさん考えてください。

時代と、伝わった文化	どんな材料、道具が必要でしょうか？
弥生時代・ <b>稲作をする</b> 	例：稲の種、田んぼ、石包丁、クワ
古墳時代・ <b>馬を育てる</b> 	例：馬
飛鳥時代・ <b>漢字で書く</b> 	例：筆、すずり、すみ、
飛鳥時代・ <b>仏教を信じる</b> 	例：仏像、

それぞれの文化について、必要なものをいくつか書いて書けましたか？

2 こんどは、必要な技術について、考えてみましょう。

例えば、みなさんが米作りをした時のことを思い出してみてください。

稲の粒と、水田と、クワとがあれば、稲を育てることができたでしょうか？

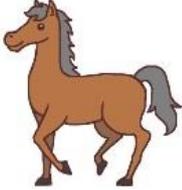
まず、種をまく時、知らなければいけないことはありませんでしたか？

いつごろ、何月何日ごろにまいたらいいのか、どこにまいたらいいのか、

どのくらいの深さにまいたらいいのか、誰かに教えてもらいませんでしたか？

こうして、材料や道具だけではなく、やり方をよく知り、じょうずにできなければ、成功しません。

ですから、今度は、それぞれの文化について、必要な知識や技術、方法などについて、考えてみましょう。これも、なるべくたくさん考えてみましょう。

時代と、伝わった文化	必要な知識（やり方）、じょうずにできる技術
弥生時代・ 稲作をする 	例：米をしまっておく倉庫の造り方、
古墳時代・ 馬を育てる 	例：子馬の育て方、
飛鳥時代・ 漢字で書く 	例：書いた物を保存する方法、

飛鳥時代・ <b>仏教を信じる</b>	例：頭のそりかた、
------------------------	-----------



文化が伝わるために、必要なもの(材料、道具)、必要な知識・技術を考えるのは、とても時間がかかり、大変だったでしょう？

簡単に感想を書いてください。

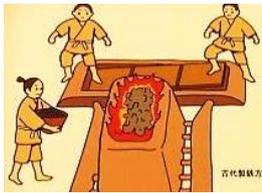
.....

.....

弥生時代から奈良時代までの間に、日本に伝わった文化は、他にもたくさんあります。古墳、土器、青銅器、鉄、布、絹などです。

その中の鉄づくりについて、みなさんと同じように、どんな材料が必要で、どんな知識が必要か、まとめてみました。

伝わった文化	必要な材料・道具(ハード)	必要な知識・技術(ソフト)
古墳時代・ <b>鉄を作る</b>	鉄鉱石、木炭 粘土、 溶かす炉、 マキ まきを切る斧 風を送る道具、 砂、 溶けた鉄を入れる型 金づち、 水を入れるオケ、 たたく台、 と石、.....	どんな石が鉄鉱石か見分ける方法 木炭の作り方 粘土を積み重ねて炉を作る方法 いつ、どんなふうに鉄鉱石を溶かすのか どうやって高温にするか 風を送る道具の作り方 いつ溶けた鉄を取り出すか やけどしない方法 やけどした時の治療の方法 鉄をどうやってたたいて刀にするか .....



この表を見ただけでも、大変たくさん道具と、いろいろな知識を知らないと鉄を作れないことがわかります。

3 日本がいろいろな文化をマスターして、完全にできるようになったということは、どういうことでしょうか？

以前、私は、小さいころ、「米作りが、中国や朝鮮から伝わった」と聞いて、何となく、「日本の浜辺に稲が流れ着いて、それを日本人が喜んで見つけ、田んぼに植えているようす」を想像しました。

しかし、それでは、きっと、稲は育たなかったでしょう。

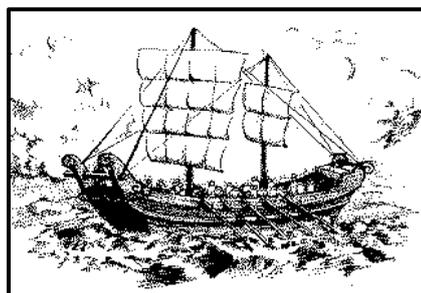
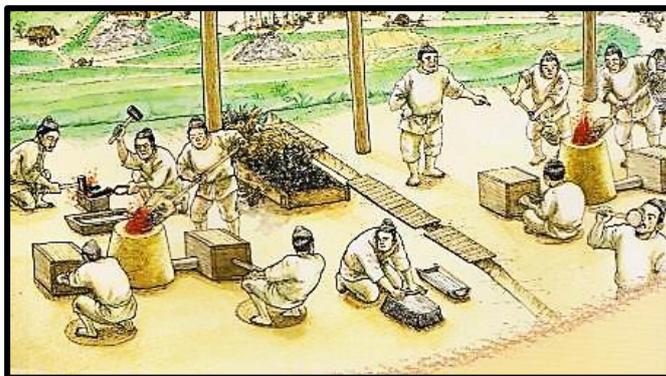
稲の種だけではなく、育てる道具、クワや鎌が必要ですし、使うやり方も知らなければ、稲の栽培はできません。ですから、必ず教える人が必要だったのです。

しかし、教える人は、一人で十分でしょうか？

米作りは、弥生時代に日本中に広まっていったので、中国人が一人あるいは、朝鮮人が一人だけやってきたのでは、日本中に教えることは不可能です。米作りを知っている人々が集団で、海を渡って日本にやってきて、やがて住みつき、日本人たちに教えたことで、日本に米作りも広がっていったのです。

例としてあげた鉄づくりは、ほんとうにむずかしい技術だったために、朝鮮半島から技術者の集団が、やってきて、日本に移り住んだのだと考えられています。その集団のようすを描いたのが、下の図です

このような人々が集団で、やってきて、日本に鉄づくりを教えました。下のような船が、何十人何百人も乗せて、日本に何せきもやって来たことでしょう。



こうした人々を、**渡来人**と言います。

4 渡来人の人々が、日本列島にやって来た理由はいろいろです。

「日本書紀」という本の中に、渡来人が何人くらい、いつやって来たのか書いてあります。それを表にしました。見てみましょう。

時代	どこから?	理由?	誰が来た??	何人	どこへ
古墳時代	百済	自分から	秦氏の先祖	120の村	奈良・京都
	高句麗?	自分から	東漢氏の先祖	17の村	?
	新羅	捕虜	?	4つの村	?
	百済	自分から	秦氏の人々	7053家族	各地へ
飛鳥時代	百済	戦争	避難民	400人	滋賀県へ
	百済	戦争	避難民	2000人	関東地方へ
	百済	戦争	避難民	700人	滋賀県へ
奈良時代	高句麗	移住	静岡県に住む高句麗人	1799人	埼玉県へ

こうして表からも分かるように、

やって来た国は、朝鮮半島の百済・新羅・高句麗などさまざまです。

理由も、戦争から逃げて来たり、捕虜として連れてこられたり、自分から進んで住みついたり・・・こちらもいろいろです。

この表の中に書いてある秦氏はたしと東漢氏やまとあやうじについて、「日本書紀」にはもっとくわしく書いてあるので、それも見てみましょう。

古墳時代にやって来たと言われる有名な秦氏はたしと東漢氏やまとあやうじは、優れた技術をいくつも持っている集団でした。得意分野は次のようなものです。

有名な渡来人の一族、大規模集団(1000人くらい?)

名字	得意な専門的な分野	日本で住んだ場所	子孫の名字
秦氏 <small>はたし</small>	機織り、養蚕、酒造、 土木技術、かんがい工事 大蔵省、神社建設	京都、大阪、	東儀、松下、三上、 平田、石川、大西、 藤木、長田・・・
東漢氏 <small>やまとあやうじ</small>	製鉄、兵器製作、警護、 暗殺、土木建築、 文書記録、外交、織り物	奈良	坂上田村麻呂 坂上、池辺、平田、 井上、谷、・・・

5 渡来人たちがすばらしい技術を持っていたことが、前のページの表からも分かるでしょう。

でも、<sup>やまとあやうじ</sup>東漢氏の人たちの専門技術には驚きませんでしたか？

鉄はいいとしても、兵器製作、警護、暗殺、・・・これはいったいどういうことでしょう。つまり、今でいえば、ガードマンであり、スパイの役をする、そういう仕事も得意とする人々のようでした。

もし、あなたが、権力を握っているとしたら、こういう人々を味方につけて、自分のために働いてもらいたいと思いませんか。

実は、実際にこの<sup>やまとあやうじ</sup>東漢氏の人々は、蘇我氏のガードマンの仕事をしたと言われています。

こうして、このように、渡来人の技術者の人々の集団を、日本の力のある豪族たちは、自分たちの味方につけ、その力を発揮しようとしていました。

他にも秦氏の一族は、聖徳太子に仕えたそうですし、<sup>かわらのあやうじ</sup>西漢氏は、物部氏というとても武力に強い豪族に仕えていました。

他にも、渡来人たちは、専門の技術を持つ者として、苗字にその名前を使ったものもあったようです。次の名前の人々は、どんな技術を持っていたのでしょうか。

**部が付く、この人たちも、前は渡来人かな？ 何の仕事の人々でしょう？**

名字	仕事は？	名字	仕事は？	名字	仕事は？
いぬかいべ 犬養部		にしこりべ 錦織部		わたりべ 渡部	
まかいべ 馬飼部		はっとり 服部		からかぬちべ 韓鍛冶部	
とりかいべ 鳥飼部		ゆげべ 弓削部		ふひとべ 史部	
くらつくりべ 鞍作部		はじべ 土師部		かたりべ 語部	

6 飛鳥時代の大きなできごと、渡来人たちの技術と大きく関係しています。

最初に聖徳太子と蘇我馬子・推古天皇が行った政治についてです。

聖徳太子のころ、天皇や貴族の人たちは、何人も妻を迎えることが普通でした。そのため、天皇の息子や甥たちは、一人や二人ではなく、数人、十人近くいることもありました。その時に、誰が、次の天皇になるか、この問題をめぐって、皇子たちが、豪族をそれぞれ味方につけ、小さな戦争になることが、たびたびありました。その時に力を発揮するのが、豪族がしたがえている渡来人たちの技術者集団でした。武器を作る技術、鉄を作る技術、戦闘訓練、そういうものを得意とする渡来人は、どれだけ頼りになったでしょうか。

ですから、聖徳太子自身も、若いころ、この天皇跡継ぎの争いの戦争に、他の皇子たちといっしょに、蘇我馬子と参加したこともあるくらいです。

こうして、同じ天皇一族にもかかわらず、兄弟、いとこ、叔父おいの間でも、殺し合いになることもよくありました。

こうした時代の中で、聖徳太子が出した十七条憲法は、争いをへらすために、何を基準にして考え、行動したらいいかを、豪族や役人たちに、出した文章です。冠位十二階は、豪族たちのかかえる渡来人たちの技術ではなく、十二段階の身分を作って、集団ではなく、個人で天皇に忠誠を誓わせようとしたしくみでした。

しかし、この後も、豪族どうしの勢力争いと、皇子たちの跡継ぎ争いが結びつくことは、なかなか減りませんでした。

それが、いっきに減るのは、中大兄皇子が、最大勢力だった蘇我氏を滅ぼし、豪族としての力が残されるのが、中臣鎌足の子どもたちだけになってからでした。

7 もう一つ、飛鳥時代には「仏教公伝」と言って、朝鮮半島の国「百済」の王様から、仏教を教えてもらうということがありました。

仏教も、これも複雑な文化です。

インドから始まったので、ブツダの教えは、インドの言葉「サンスクリット語」で書かれていました。それを、中国語に直したのは、中国のお坊さんです。

それが朝鮮に伝わったのですから、今度は、お経を中国語で読めたり、朝鮮語で読めなければ、仏教はわかりません。

それに仏像、お寺、修行のしかた、仏教の道具など、知らなければならないことがたくさんあったはずです。

百済の王様は、日本の国王へのプレゼントとして、仏教を伝えるために必要なさまざまな集団を、日本に送ってきたこととされます。

しかし、最初、日本では仏教の神様を信じるのが、受け入れられませんでした。豪族の中でも議論になり、今までのヤマトの神 180 もの神々を無視すれば、たたりがあるのでは・・・という意見も出ます。

その一方で、その当時の天皇が一番驚いたのは、金で作られた仏像の美しさだったと「日本書紀」に書かれています。



現在の学者の人々の説によれば、「たぶん当時の日本人にとって、仏教の何もかもがチンプンカンプンだっただろう。ただ、仏像の黄金にかがやく様子だけが、印象的だったのではないか」という話でした。

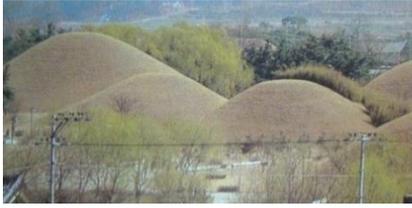
その、黄金の仏様がどういうものだったか、レプリカを見てみましょう。

ただ、蘇我氏だけが、その百済からの技術者集団を受け入れて、最初に寺を建設し、五重塔を建て、飛鳥大仏を造らせてお祀りするのですが、瓦屋根でできた立派な寺院やピカピカ光る金の飾りをつけた五重塔は、お経よりも修行よりも、都の人々を驚かせたに違いない、と説明されていました。

## 仏教伝来とは？・・・飛鳥時代

<p>◆仏教が来るまでのヤマトの神様</p>	<p>人間の形はしていない。自然そのものが神様。 いたるところにいろいろな神様がいる。</p> 
<p>◆仏教が百済の聖明王からプレゼントされる。(6世紀)</p> 	<p>仏像と経典の技術集団、寺の建築集団などを送る？</p> 
<p>◆天皇は仏像に感銘するが、迷って豪族に意見を聞く。そして蘇我氏に仏像を預けた。</p>	<p><b>物部氏・中臣氏</b> ヤマトには天地に180の神がいます。たたりがあるかもしれない。</p>   <p><b>蘇我氏</b> 西の諸国はみな信仰していますので、受け入れましょう。</p> 
<p>◆伝染病が大流行</p>	<p>原因は仏教のせいだとして、仏像や寺を焼き 尼さんらの衣服を取って、むち打ちなどした。</p> 
<p>◆蘇我氏が攻撃して物部氏滅亡</p>	<p>推古天皇が仏教を受け入れ、飛鳥寺、法隆寺などを建てるようになった。</p>  
<p>◆蘇我氏が仏教を受け入れた理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡来人たちが仏教を信じていた</li> <li>・仏教が使っている金の仏像を作る技術、</li> <li>・五重塔を建てる技術、</li> <li>・瓦を焼いて屋根を作る技術、</li> <li>・紙や筆を作る技術など、 その技術と文化に魅かれて優遇したのだろう。</li> </ul>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・渡来人の技術を豪族として持っていることは最先端の技術を持っていることで、一番の権力になる</li> </ul>

8 渡来人の影響を一番強く受けた時代は、古墳時代です。日本と朝鮮の国々の遺跡から発掘されるものは、とてもよく似ています。次の物を見ると、いかに二つの地域が強く結びついていたか、きっとよくわかることでしょう。

	朝鮮半島	日本
古墳	新羅 	
壁画	高句麗 	
鉄	伽耶 	
金冠	新羅 	
武器	伽耶 	
仏像 銅鏡 鐘	百濟 	

## 飛鳥時代の授業

### ねらい

- ① 渡来人が日本にやって来たということを具体的イメージを持って理解する。
- ② 飛鳥時代は、国の権力が不安定で、内乱がよく起きていた
- ③ 仏教伝来も渡来人の技術をどう受け入れるかという問題だった。

### 授業の構成

- 1 渡来人が集団で、古代、日本にやって来たということを、イメージできるように、思考過程をたどる。
- 2 どんな渡来人たちの集団が来ていたか、具体的な技術などを、日本書紀で確認する。
- 3 飛鳥時代前後は、渡来人たちの影響なくして、政治を動かすことはできなかった。
- 4 十七条憲法も、冠位十二階も、仏教も、渡来人との関係で、意味を成してくる。